

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3371100375		
法人名	(株)メディカメント		
事業所名	グループホームいやしの家備前		
所在地	岡山県備前市伊部323-1		
自己評価作成日	令和4年2月19日	評価結果市町村受理日	令和4年6月27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

備前市は昔から備前焼の里として知られ、その中心街の近くにホームがあり、静かな環境の中で生活をしています。午前中は日光浴をかね玄関先のベンチでおしゃべりをしたり体操をしたり時にはお茶をしたりしています。朝昼夕の食事は季節の食材を取り入れ食事を楽しみ、1人1人の特性を活かし編み物や塗り絵、写経など様々なその人ができる事を日々の生活の中で楽しんでいただいています。午後は洗濯物たたみなどそれぞれの方が出せることなど自由にして過ごしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念をもとに、利用者の思いや意向を傾聴し、寄り添うことを大切にして対応を工夫し、利用者が日々心地よく過ごすことができるよう支援に努めている。利用者や職員は生き生きとした家庭的な雰囲気の中で、冗談を言いながら笑い、良好な関係を築いている。職員は利用者の出来る事を把握し、利用者は体操や歌などのレクリエーション、毛糸巻きや新聞折りなどの作業や数字合わせなどを行っている。また、朝・夕とソファに集まって談笑したりテレビを見たりして一日を過ごしている。事業所内は清潔に保たれ、食事は良質な食材を利用して職員が手作りしている。管理者は利用者や職員の話や意見を聞く姿勢を持って声かけや対応をしている。職員は勤続年数が長い人や女性が多く、お互い協力しあえる職場環境である。(感染予防のため書面・電話聞き取りにて評価施行)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと		
所在地	広島県福山市平成台31-34		
訪問調査日	令和4年3月5日		

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	特定非営利活動法人 あしすと			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 コロナ禍の為、面会が中止になったり、制限があったりとで家族と利用者双方に満足のいく形での交流が出来ていない。	スタッフルームに3つの理念を掲げ2ヶ月ごとのカンファレンスで共有している。	基本理念の「基本的人権の保護・家庭的な生活・生き甲斐のある生活」を事務所などの目に留まる場所に掲示し共有している。理念を復唱し念頭に置いてカンファレンスに臨み、実践につなげている。管理者は言葉遣いなど気になることがあれば職員に声をかけ、昨日より出来ていることがあれば称賛して職員の育成に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員の技術及び知識の向上に務める。	町内会に加入し、適宜職員がホーム周辺の清掃を行っている。地域の絵手紙サークルから作品の提供があり、玄関に飾って利用者が見て楽しんでいる。近隣住民と出会えば挨拶を交わしたり、敷地内で行事をしていると近隣の子供が声をかけてくることもある。地域の中学生から計算問題の用紙や雑巾の寄付があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年夏休みに中学生のボランティアを受け入れていたが今年度も新型コロナウイルスの影響により実施できず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年度に引き続き今年度も新型コロナウイルスの影響により実施出来ていないが職員間で情報共有行なう。	コロナ禍のため行政や地域住民を交えての開催が困難であった。2ヶ月毎に事業所内の両ユニットで会議を開催し、活動状況報告などの情報共有を行い、職員の意見を聴き、日々の支援に活かしている。市へはWeb上で会議の報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況など必要に応じて連絡をとっている。	管理者は市と相談事や介護保険の更更新手続き、入居状況の報告などを行い、地域包括支援センターや社会福祉協議会とも連携を図っている。市の研修などへは参加するように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1度行い、基本的な禁止の対象を理解し、疑問などは話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。	2ヶ月毎に身体拘束禁止委員会を開催し、カンファレンスで利用者の状態について身体拘束に該当しないかなど検討している。また研修も行い、レポート提出によって職員の理解度を確認している。帰宅願望がある人には声掛けの工夫や傾聴・受容の対応、気分転換で、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については事業所内の研修資料などを基に研修会を開き職員の理解と知識の向上をはかり防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加して学んだことは職員間で共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、改定時など分かりやすい言葉を使い、質問しやすい雰囲気作りで心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族や行政に出席していたり近況報告をしたり意見を聞いて運営に反映している。今年度は新型コロナウイルスの影響により実施出来ず。	利用者からは日常生活の中で要望を聴き、お好み焼きのテイクアウトや庭での花の鑑賞などに活かしている。家族からは電話や面会時、ケアプラン更新時に意見や要望を聴き、衣服の調整などに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月毎のカンファレンスで職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	カンファレンスや業務の中などで、随時職員から意見を聴いている。窓の開閉やトイレ誘導のタイミングなど生活全般について意見があり、検討して反映させている。レク係がお花見や納涼会などの行事を中心となって実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回管理委員会があるのでホーム長が代表者に状況を報告し環境の整備や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を確保しやすいよう勤務や休みなどを調整し協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームの管理者が定期的に集まり報告会を開いて共に質の向上の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安の多い初期には細かな配慮を心掛け、不安なく過ごせる工夫に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面会時には細かく生活の様子を話し安心していただけるよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の好みや家族の要望を見極め必要とする支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存機能を活かせるように過度の介護はせず家事などのできることを職員と一緒にしていただくようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は新型コロナウイルスの影響によりホーム内での面会実施できていない。一定期間玄関先や窓越しに対面できていたが現在は中止している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう面会時の対応を心掛けている。今年度は新型コロナウイルスの影響により面会、交流実施できず。	利用所のこれまでの馴染みの関係を把握している。面会はコロナ感染症の状況に応じて法人の方針に基づき、家族に電話で知らせ、玄関にて対面方式などで行っている。息子や孫が来訪し手紙を手渡される人、娘からの手紙を見てうれし泣きする人、電話を定期的にかけて来る家族などがいる。	事業所での取り組みの周知や家族と利用者の関係継続の支援となるよう、利用者の日常的な様子をお便りや写真を活用してお知らせし、家族の安心につなげることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理をせず利用者の個性を大切にしつつ利用者同士が支えられるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても訪問しやすい環境を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意思を尊重してできるだけ希望にそえるようにしている。	日常生活の中の声かけや会話から思いや意向を傾聴し、寄り添うことを大切にしている。把握した思いは申し送りや記録で職員間で情報共有している。利用者同士の関係の支援として、席替えなどで対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活歴の聞き取りをしつかりして入居後に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日頃からしっかり様子観察していつもと違うことがあれば申し送りでつないでいくようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	2ヶ月ごとのカンファレンスでモニタリングを行い家族の意見を参考に作成している。	ケアマネジャーが入居2～4ヶ月で暫定プランを作成している。2ヶ月毎にカンファレンスとモニタリングを行い、状態に変化がなければ1年毎に見直しをしている。家族や医師の意見を取り入れ、薬剤に関してはかかりつけの薬剤師に相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活が見えるような記入にし家族、職員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今までの生活歴や家族の状況に合わせ一人ひとりのニーズに合った対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でのイベントなどに参加して楽しめるように支援している。今年度は新型コロナウイルスの影響により参加交流できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と今までのかかりつけ医の関係が継続出来るようにし納得のいく医療を受けられるよう支援している。	入居時や適宜に本人・家族に要望を聴き、かかりつけ医への受診対応をしている。事業所の協力医へと移行する人もいる。協力医の往診が月2回あり、訪問看護は月4回ある。歯科は往診対応で、他科受診は家族または施設で受診対応している。夜間・緊急時は管理者が協力医に連絡し、指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護で看護師に報告し指示をもらったり受診の相談を主治医と相談してもらって適切な支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護や往診後に情報交換の時間を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為がない場合、家族、訪問看護、主治医と看取りの話し合いをし納得のいく支援に取り組んでいる。	利用者が重度化した場合は話し合いをして、主治医の判断で、家族に説明し同意を得て入院もしくは他施設での療養となる。医療行為を必要としなければ家族や医師と連携を図り、事業所で可能な限りの対応をしている。急変時は迅速な対応で、家族や医療機関と連携を図り支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日頃から様子観察をしっかりと申し送りし初期対応の時期を逃さない実践力を職員は身につける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	昼、夜の想定でそれぞれの避難訓練を行っている。	年2回9月と12月に夜間想定も含めた消火・避難訓練を利用者と一緒に行った。訓練後は振り返りを行い、改善点を把握して今後につなげている。地震・水害時にはハザードマップを活用して避難経路などを把握し情報共有を行っている。2～3日分の備蓄を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員優先ではなく一人ひとりの性格を把握した対応を心掛けている。	利用者が日々心地よく過ごせるように心がけて、自分の親を思うのと同じ気持ちで笑顔で対応している。日常の声かけや不穏時の対応は尊厳を考慮し、排泄・更衣・入浴時はプライバシーに配慮した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレ誘導、入浴など生活の中で利用者のその時の希望を聞き業務優先にならないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	押しつけにならないように一人ひとりのペースにそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服やアクセサリーでおしゃれを楽しんでいたたり意思表示の困難な方には同じ服にならない配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材で季節感を感じてもらったり好みを聞いたりしながら準備や片付けも一緒にしている。	職員がメニューを考案し、手作りをしている。畑でミニトマトやスイカを栽培し食事に利用している。利用者は野菜の皮むきなどできることを一緒に行っている。お誕生日には皆でケーキを食べ祝い、敬老会ではお好み焼きや紅白饅頭を食べるなど行事食が利用者の楽しみとなっている。また、ちらし寿司を美味しいと喜んで食べる人もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や体調、好みを把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできないところは介助し入眠前には義歯の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートで排泄パターンをつかみ一人ひとりにあったトイレ誘導をしてトイレでの排泄を基本にしている。	排泄チェック表をもとに利用者の排泄パターンを把握している。日中全員がトイレを利用し、夜間は利用者の状態に合わせて対応している。一部介助や見守りで個々に合わせた対応を心がけている。散歩や足踏み、体操などで、筋力低下を防止し、排泄の自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便リズムを把握して飲み物の工夫や薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望も取り入れ入浴を楽しめるよう支援している。入浴後は保湿ケアに努めている。	週に2～3回入浴している。入浴中は機嫌良く話が弾む人、普段話さない事を話す人など開放的な雰囲気になる人もいる。足湯や柚子湯で入浴の楽しみを工夫し、入浴後は保湿剤などの塗布で皮膚のケアを行っている。入浴を嫌がられる人には気分転換や声かけ、時間の変更で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間を決めず就眠まで思い思いの時間を過ごしていただき気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬を把握しており薬の疑問のあるときは薬剤師に尋ね納得のいく服薬支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできる力を活かし楽しみながら役割ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃らご家族に外出のお願いをしている。季節の良い時期にはホームの行事として出かけている。今年度は新型コロナウイルスの影響によりホーム外へは外出出来ていない。	事業所の敷地内を散歩し、気候の良い時にはほぼ毎日1時間ほど日光浴を行っている。庭では花や野菜を栽培し成長を楽しみに見ている。春のお花見の会では手作りした紙の花を庭に飾り付け、カレーを食べた。オープンカフェでは好みの飲み物をメニューから注文し、職員手作りのサンドイッチを戸外で食べた。コロナ禍のため外出は自粛しているが、受診時に外出する機会がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば買い物に同行したり、代理で買い物をする支援もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から友人や親せきの連絡先を聞いておき本人の希望が叶うように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くような物や障害になる物は除き季節感のあるもので工夫している。	ゆったりとくつろげるアットホームな雰囲気のリビングには季節行事に合わせた装飾品や利用者が作成した壁画を飾っている。利用者はリビングのソファに集い談笑している。施設内は定期的に換気を行い、空気清浄機や加湿器を用いて環境に配慮し、また清潔を保ち居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなど思い思いに過ごせる居場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族や面会者がくつろげるよう本人、家族で工夫していただいている。	明るい陽射しが差し込む居室にはタンスやベッドが備え付けられ、使い慣れた椅子や化粧品、ぬいぐるみや花、家族写真、テレビなどが持ち込まれている。本人らしく自由に居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できるよう障害になるようなものは置かないようにしている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ禍の為、面会が中止になったり、制限があったりとで家族と利用者双方に満足 of いく形での交流が出来ていない。	年4回、事業所内での取り組みや入居者様の様子などを「いやしの家備前だより」として発行し少しでも家族様には日常的な様子などをお知らせし安心していただけるように取り組む。	年4回「いやしの家備前だより」を発行する。	3か月
2	13	職員の育成 新しい職員も加わり業務が出来ているように見えても細部に課題がある。	職員の技術及び知識の向上に務める。	ホーム内研修や外部研修への参加の機会を設け職員に働きかけていく。	1年
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。